

## 西村大臣記者会見要旨

令和2年11月19日（木）18時35分～19時10分（35分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）明日18時30分から新型コロナウイルス感染症の分科会を開催いたします。ちょうど今、厚労省でアドバイザリーボードが開かれていますと思います。専門家の皆さんの感染状況の分析を踏まえて、明日、議論したいと思います。

感染者の数、新規陽性者の数は昨日時点で2,179人ということで。1週間の合計がこちらです。1万人になっていまして、18日までの直近1週間で1万1,296人となっています。その前の週の1週間が8,015人です。その前が5,000人ということで、昨日、爆発的な感染拡大、オーバーシュートの話をしてしまったけれども、倍増になるには2週間かかっているというか、3週間かかっているというか、ということですが、そういう意味ではまだオーバーシュートではないのですけれども、かなり急速に増えてきているという認識を持っています。この状態が続けば、亡くなる方の数、春、この4月、5月、この4月以前はもっとなんですけれども、5月、それから8月、9月に比べて低く抑えてきましたけれども、今後、重症者の数が増えれば亡くなる数が増えてくる可能性があるわけで、極めて強い危機感を持っているところであります。

各県と連携をして、病床の確保をしっかりとやらなければいけないと考えています。あわせて、この新規陽性者の数もやっぱり抑えていかないと、やがては重症化する人が出てきますので、何としてもこの感染拡大を抑えなければいけないということでもあります。

東京都も今日、モニタリング会議で最高レベルに感染状況を上げたということでもありますので、しっかりと連携をして対応していきたいと考えています。病床の数、重症者用の数を増やすということ、そういうお話もあつたと聞いております。幾つかの県で最高の数との報告を受けておりますが、それぞれ連携を取り合って病床の確保に努めているところであります。

特に、これから寒くなる中で初めての冬であります。昨日、一昨日も申し上げました。やはり換気が不十分であったり乾燥したりしていれば、さらに感染が広がる恐れもあります。まさに気を引き締めて対応しなければいけないと考えているところ

であります。

今日は経済団体と幾つかまた意見交換をさせていただきました。関経連と、それから西日本経済連合会ということで、中部から西の経済団体の代表が来られました。私からは改めて職場での感染防止策についてお願いをしたところです。

体調の悪い人は出勤をさせない、あるいはテレワークをやる方は是非やっていただきたいということ、あるいはCO2濃度センサー。それから、「5つの場面」の特に休憩室、更衣室、喫煙室、こういった所で感染が見られるということで、特に注意をしてほしいというお話と、それから、会食の場面。経済界の皆さんも会食の場面が増えてきていると思いますけれども、アクリル板とか斜めに座るとか、CO2濃度センサーで換気をチェックするとか、それぞれ注意をしていただきたいというお話をさせていただきました。

情報発信の強化についても申し上げます。テレビCMを流す予定にしております。年末年始が近づいて、まさに会食の機会が増えると思いますが、政府広報として、短いCMですけれどもどうぞ。

(CM) 会食の機会が増える時期ですね。飲み会では大きな声が出がち。大人数、長時間だとさらに感染リスクが高まります。お店は感染防止のガイドラインを守っているかを選びましょう。店内では斜めに座るだけでも違います。少しの工夫でリスクは下げられます。詳しくはこちらで。

(大臣) いつでもマスク、あるいはマスクをつけた会食、こういったことについてもちょっと追加的にやりたいと思っていて、まずはこの5つの場面を多くの人に知ってもらおうということでもあります。内閣官房のホームページで今日アップをさせていただきました。12月1日からテレビで流す予定にしております。

それから、初音ミクさんのポスターも作っていただきました。初音ミクさんの協力を得まして、この「5つの場面」のポスターを作りましたので、これを私ども内閣官房のコロナサイト、ここにありますので、ここからダウンロードしていただければ、それぞれのお店や職場やいろんな場面で貼っていただければありがたいと思っております。特に若い方になかなか情報が届い

ていないという御指摘もいただいておりますので、こうした取組を強化していきたいと思っております。

そして、17か国語のポスターも今、掲載をしておりますので、日本におられる外国人の方々にも情報が届くようにしていきたいと考えています。「5つの場面」のさっきの動画も、17か国語で用意をしようと思っております、今、作業を進めているところであります。

多くの方に是非理解をしていただいで、この5つの場面、特にマスクを外す場面ということですので。マスクが何より命を守る、健康を守る大事な大事なものでありますので、いつでもマスクということでは是非多くの皆さんに理解をしていただいで、食事の時とかはどうしても外すわけですけれども、しかし、食事をする合間の会話をする時はマスクを着ける、あるいは休憩室でも更衣室でもマスクを着けるということをして、是非徹底をしていただければありがたいと思います。

それから、成長戦略の会議につきまして申し上げます。本日、第4回の成長戦略会議を開催しました。第1に生産性の向上、中小企業の課題。第2にデジタル関連投資、国際金融投資、コーポレートガバナンス、ロボット、こうしたことについて議論をいたしました。最後に官房長官の御挨拶がありましたので、それを参考にさせていただきながら、私の方で幾つか論点のあった点を申し上げます。

まず、感染状況、この状況について、地域の状況を踏まえ、また企業の業績なども踏まえながら、中小企業に対する支援を柔軟に行っていくということ。特に中小企業は地域の雇用になっているという御意見もございました。

それから、やはり中小企業の労働生産性を上げていくというのが鍵であるという議論であります。労働参加率、労働生産性の伸び、これを上昇させる必要があります。

そのためにデジタル化の推進、それから中小企業の規模の拡大、こういったことを支援していく。また、中小企業から中堅企業への成長途上にある企業、こういった企業もしっかりと支援し成長を促進していくということでもあります。あわせて、スタートアップ企業もしっかりと応援すべきであるという御意見がございました。

そして、競争政策の強化、これは取引適正化のためでもありますし、各国とも、かつての産業政策的な、そうした政策も見

られるわけでありまして、まさに競争政策は今後しっかりと議論していきたいと思えます。

それから、大企業とスタートアップ企業の契約についての知財の方とか、大企業と中小企業のパートナーシップの構築とか、こういったことも進めていきたいと思えます。

そうした中で、無形資産への投資が非常に重要になっているという御指摘もありました。今年の経済白書で無形資産への投資をピックアップして分析もしております。是非、御覧いただければと思えますが、あわせて人材への投資、人材育成という観点から、多様な働き方、新しい働き方、テレワーク、兼業、副業、フリーランス、こういった環境も作っていただければと思えます。

それから、デジタル関連投資については、構造変革への対応を図ろうとする企業に対して、税制で支援を行っていくことの検討を進めているところであります。規制改革も特に自動配送とかドローンによる自動配送とか、こういったことを含めて関係大臣において議論を加速していきたいと思えます。

それから、バーチャルオンリーの株主総会の実現に向けた法整備、これも関係大臣と協力してスピード感を持って取り組んでいきたいと思えます。

また、女性の参加率向上、女性の活躍、これをもっと支援するべきだという強い御意見もいただきました。しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

また、国際金融都市についても、資産運用業者にとっての魅力を上させるための金融規制の見直し。それから、トータルな金融創業支援へのネットワークの形成にスピード感を持って取り組んでいきます。人材を受け入れていくためのチャンスでもありますので、良い機会でもありますので、税制改革などを通じてしっかりと取り組んでいただければと思えます。

また、コーポレートガバナンス、これもこれまでも取り組んできましたけれども、さらに進めるべきだという御意見をいただいております。こういった御意見を整理して、年末の中間取りまとめに反映させていきたいと考えております。

私からは以上です。

(問) 2点伺います。

今日は多くの都道府県で新規の感染者数が過去最多となって、

全国の総数も昨日に続いて過去最多となりました。改めて今の状況というのは夏の大きな波とどのように違うのか、あるいは社会経済活動の制限など、より強い措置というのがなぜまだ必要がないのか、分かりやすく説明いただければと思います。

もう1点。今日、菅総理が朝、「静かなマスク会食」というのを呼びかけまして、実際に昼の会食で実践されました。ただ、ああいう形で厳密に「静かなマスク会食」というのを守ろうとすると、緩みがちな夜のお酒を伴う会食というのは、当面控えた方が良いのではないかと思う人も多いのではないかと思います。もし、この「静かなマスク会食」というのが実現できないのであれば、基本的には酒席は控えた方が良いのかということも含めて、改めて今回の総理の呼びかけの狙いと、その必要性について伺えればと思います。

(大臣) まず、1点目の今回の感染拡大については、新規陽性者の数で見れば、夏の大きな流行に匹敵する、あるいはそれを上回るような大きな流行となっております。極めて強い危機感を政府内で共有しているところであります。それぞれの都道府県別の状況が違いますので、それぞれの都道府県での一つは病床の状況、それから陽性者の発生の状況、つまりクラスターの状況、こういったところをこまめに、それぞれの都道府県と連携して分析を進めています。

そうした中で特に北海道がすすきのを中心に、いわゆる接待を伴う飲食店からその周辺に広がっている中で、今、重点的な検査を行ってきています。北海道全体で言えば、検査件数がこの1カ月で3倍ぐらいに増えています。ちょうど夏のときに新宿で重点的にPCR検査を行って、あのときにも申しあげましたけれども、無症状の人も含めて幅広く検査を行っていていますので、当然、陽性者の数は増えます。

これは東京の小池知事も言われているように、昨日は8,600件ということで最高だったようですが、関係者に幅広く重点的に検査を行うことによって陽性者の方を特定して、そして、二次感染・三次感染を防ぐということでありました。夏の新宿はそれを行うことによって減少傾向に転じさせることができたという分析を、私どもはワーキンググループでの議論を経て公表させていただいているところであります。

そういう意味で、北海道で今取り組んでいること、それから全体として東京も増やしていますし、例えば私の地元兵庫県で

も、今日は陽性者の数が最高になっているようでありますが、倍ぐらいに検査件数も増やしています。クラスターが発生すれば、その関係者に幅広く重点検査を行うと。重点的に、前広に、幅広く行うということを取り組んでおきますので、一時的に増える部分があります。

それが二次感染・三次感染を防いでいくという効果もあるわけでありますので、夏るときもそうでありましたけれども、今はそれをしっかりと見極めたいと思っています。ただ、かなりの数が出てきていますし、このスピードも上がってきていますので、危機感を持っているというのはそういう意味でありまして、既に北海道では営業時間短縮という強い措置に入ってきています。

それから、ガイドラインを強化しようということ、特に会食の場面での感染も増えているということから、飲食店でのガイドライン、アクリル板とかもう既に申し上げたCO2センサーであるとか、こういったもので強化をしていく方向です。事業者の皆さんにこのガイドラインをしっかりと守ってもらうと。そして、二つ目の質問にも関連しますが、参加される方、食事をされる方がマスクをすることが極めて大事だということでもあります。これは専門家の皆さんから、まさに尾身先生の会見でもやられたことでもあります。

面倒くさい、手間がかかることではありますが、御自身の感染を防ぐ、命を守るというためにも、また、親しい仲間の健康、命を守るというためにも、是非、実践をしていただければと思います。

あわせて、昨日申し上げましたけれども、厚労省から高齢者施設の検査をしっかりと行っていく、このことを都道府県と連携して今取り組んでいます。今日、通知も出されたのではないかと思いますけれども、当然1例でも陽性者が出れば、しっかりと検査を全員に行うと。それから陽性者が出ていなくとも、感染者がいなくとも、地域でリスクが高い、地域でクラスターが発生しているなどあればPCR検査。陽性者が出ていなくともその施設の全ての人、入所者の方あるいはスタッフに検査をします。これは医療機関も同じであります。

これも非常に大事な点でありまして、最初の病床確保と同様に、高齢者あるいは基礎疾患のある方の命を守るということで、夏は繁華街に集中的に検査を行いました。そして今、それはす

すきのでやっています。札幌でやっています。それからそれぞれの地域でクラスターが発生したら幅広くやるということ、今それぞれの県でやっています。さらに高齢者施設、医療機関でさらに徹底して検査をやるということが大事だと思っています。

医療機関の場合は入院される方、手術される方に自分のところで検査はできますから、それでかなり行って院内感染はかなり減ってきている、少なく抑えてきているということでありますけれども、高齢者施設の場合はもう一回そういったことを周知して、徹底して検査を行って、高齢者の命をお守りするという取組を進めているところであります。

もちろん、明日の分科会で様々な御議論をいただくとお思います。政府としては今の取組を徹底してやっていくことに加えて、何よりマスクが大事だということ、皆さん方に御理解いただいて、いつでもマスクということ、マスク会食、これを徹底していただけるとありがたいとお思います。

当然、大人数、長時間、深酒、こういったものはリスクが高いということが「5つの場面」から示されていますので、そうならなければ感染防止策を徹底して、その上で社会活動、経済活動と両立していくということでもありますので、是非、徹底をしていただけるとありがたいとお思います。

今日のアドバイザリーボードの議論を経て、明日、分科会で様々な御議論があるとお思います。ステージⅢ・Ⅳの指標も我々は毎日見ていっていますので、当然ステージⅢになれば様々な政策の見直し、あるいはより強い措置、ステージⅣに当たってくれば、緊急事態宣言も視野に入るとい、そういう提言、目安をいただいておりますので、機械的に数値だけで決めるわけはありませんけれども、しっかりと指標を見ながら、対応を判断していきたいとお考えています。

（問）今日の東京都の発表について、ちょっとお伺いしたいのですけれども。

感染の警戒度は最高レベルに引き上げたんですが、飲食店などへの営業の時間短縮要請などはしていません。その理由について小池知事は「重症者が増えていない」ということを理由に挙げていらっしゃるんですけれども、繁華街のクラスターというのは続いておりますし、時短の要請をすることで、国民の危

機意識を高めるといような効果もあるのではないか、と個人的には思っているんですけども、政府としては臨時交付金を準備していて、感染が拡大している自治体には積極的な活用を促したいのではないか、というふうに探っているんですけども、東京都の今回の御判断についてどういうふうに思っているでしょうか。よろしくお願ひします。

(大臣) 小池知事とも今日は話していませんけれども、昨日か一昨日か話をしました。危機感共有していると思ひます。事務的にも今やり取りをさせていただいております。何とかこの感染拡大を抑えたい、抑えようという思ひは共有しております。

そうした中で、小池知事ならではの発信力で今日も会見をされて、私は全部は見えていないんですけども、「5つの小」を忘れずにということ発信もされておられました。都民の皆さんのそうしたいわゆる行動変容というか、我々は常にマスクということを申し上げていますが、いつでもマスクということ、こういったことを。

これまでも本当に国民の皆さんにはマスク、手洗い、消毒、3密回避と、よく分かっておられると思ひますけれども、改めてもう一回こういう基本的な感染防止策を徹底してもらうこと、これが大事だという認識は共有しています。我々はいつでもマスクということを申し上げています。小池知事も特に強い発信力で、そういったこと呼びかけておられるんだらうと思ひます。

東京都の指標も見ながら、また小池知事とも話したいと思ひますし、明日の分科会でも様々な議論があると思ひますので、状況をしっかり把握しながら必要な措置を、私ども政府としてやるべきことはやっていきたいと思ひますし、都として果たすべきことをしっかり進めていただきたいと考えています。

(問) 感染が急増している中で3連休を迎えるわけですけれども、連休となれば必ず人出あるいは会合とかも増えると思ひますけれども、3連休にこういった過ごし方、あるいは守って欲しいことという、その辺りはどのようにお考えでしょうか。

(大臣) 繰り返しになりますけれども、とにかくマスクと手洗い、消毒、そして3密回避というこの基本。この応用編という場面として、「5つの場面」が提示されて、その共通点はやはりマスクを外す場面。しかもそれがお酒が入ったりすると、



あるいは久しぶりに会った人なんかで話が弾むと、長い間マスクを外しての会話をしてしまう。

そして、近い距離であったり大声になったり、これでリスクが高まるわけでありまして、とにかくいつでもマスクというのを是非、頭に置いておいていただきたいと思います。面倒くさいし、手間はかかりますけれども、食事のときも食べるときは外して、そして着ける。フェイスガードでも良いんですけども、こういったことを徹底することが大事だと思います。

それといろいろ予約をされて、いろんなところに行かれる方、食事に行かれる方もあると思います。でも、体調が悪ければ、何か違和感を感じれば、それはもうやめていただく。そういう方は是非控えていただいて自宅で休んでいただく。そして、できることならかかりつけ医などに連絡して、そして検査を受けていただくということが大事だと思います。

この基本的な感染対策を徹底することが、何より経済活動、社会活動を行っていく大前提でありますので、これができないと本当に強い措置で制限をかけていかなければいけないということになりますので、是非、基本的な感染症対策をお願いしたいと思います。

その上で明日、分科会もあります。今日のアドバイザリーボードの感染状況の分析もあると思いますので、専門家の皆さんの御議論を踏まえて、専門家の皆さんも発信をされると思いますし、政府としてもしっかりと発信をしていきたいと考えています。

ガイドラインの強化も急いでおりますので、冬、年末年始を迎えるに当たって、できるだけ早く飲食店などのガイドラインの改定・強化をさせていただいて、こういうアクリル板とかの取組に、持続化補助金などで我々は支援をしながら、事業者の側も、そして利用される側もそれぞれが感染防止策を徹底することによって、何とかこれ以上感染が拡大しないようなそんな取組を、我々としても強化していきたいと思っておりますし、とにかく検査をしっかりとやっていくと。それぞれの県で検査件数を増やしていきつつも、重点的に必要なところに検査を増やしていくということ、前広にやっていくということも大事だと思っています。

(問) 大臣、御苦労様です。

今、足下の感染状況についてなんですけれども、これからも重点的な検査をしたり、あるいは自主的な検査なども含めると、これからも感染者の数が増えていくことが予想されるかと思うんですけれども、国民が不安を抱かないために、2つのうち1つは、何人ぐらいまでの新規陽性者だったら驚かなくて良いのか、医療体制が耐えられると考えていらっしゃるのか、教えていただけないでしょうか。

あともう1つ。今回の山といいますか波は、どの程度まで新規陽性者が増える、あるいは1日当たりの新規陽性者が増えるということを政府として想定されているのか。今、静かな会食とかを求めているらしいですけれども、それによってどの程度抑えることができるのか、見通しについて国民に示していただけないでしょうか。

(大臣) 感染がどうなるかというのは本当に神のみぞ知るといいます。これはいつも尾身先生も言われています。予測をすることが極めて難しい。これは専門家の皆さんと話しても、なかなか正確な見通しというのはできないわけでありまして。人工知能を使って、あるいはSIRモデルとか幾つかのモデルを使って予測を出されている方もおられます。

我々は新規陽性者の数の予測というよりは、これだけの検査をやれば2週間後、3週間後にこのくらい減らせるのではないかという数値など、あるいは数式などは過去にもお示しさせていただきました。重点的な検査を行うことで一時的には陽性者が増えますけれども、2週間、3週間後には、二次感染・三次感染を防げますので、2週間、3週間後には減ってくるということが確認されています。

そういう意味で、札幌で行っている、北海道で行っている重点検査、東京も8,600件、兵庫県も倍にしています。それぞれの県で増やしていています。これは必ず効果が出てくると思いますし、それから営業時間の短縮の要請をすすきのエリアで行っています。これで人出もかなり減ってきているようです。データで見ると3割ぐらい減っているんですかね。

かなり減って、夏のそれぞれのワーキンググループの分析でいくと、このくらい減ってくると、重点検査と合わせてかなり効果を持ってくるということを期待していますが、ただ、一時的には新宿もそうでした。毎日毎日、自主的に検査を受けていただいて数が増えましたので、これはなかなか推測すること

は難しいので、数値のコメントはできませんけれども。

ただ、これで見ただけだと、北海道の陽性者の数、これはまだ分からないんですけれども、10%ぐらいあったものが9%、8%と。検査件数もかなり増やしていていますから、1週間前は1万2,000だったのが1万8,000です。6日前から50%増やしています。

楽観はできませんので、少しでも下がって安定してくれば良いと思っていますけれども、東京の場合も8,600とかなり数を増やしていています。昨日は6,300だったようですけれども、1週間の移動でいくと3,800から4,100まで増えていますし、陽性率も5.8にとどめています。大阪も1万8,000前後、昨日は1万9,000ですかね、かなり検査を増やしていていますので、8%台ということになります。

陽性率を見ただけだと、10%というのがステージⅢの指標なんですけれども、今のところ愛知県が10%を超えていますけれども、それ以外のところは10%にまだいていません。ただ、北海道とか大阪、兵庫、この辺りが高い数字になっていますので、要注意で我々は見ていますけれども、このステージⅢの指標をしっかりと見ながら、北海道も病床がかなり埋まってきました。

重症者用のベッドはまだ余裕がありますけれども、陽性率もまだ余裕があります。余裕があるというか8%台で高いんですが、こういったところの指標をよく見ながらステージⅢ、ステージⅣ、機械的に全部当てはめて判断するわけではない、ということをお理解いただいていると思いますけれども、1つの目安としては、我々はやはりこの指標を見ながら、特に専門家の皆さんが言われているように、病床が大事だということの数字をよく見ながら、大阪、兵庫で高くなってきています。

兵庫の場合は、余裕がある限り宿泊療養はホテルじゃなくて、まずは病院に入れるんだということの方針で知事がやられていますので、どうしても高くなるんですけれども、それでも重症者用のベッドを増やすということで取り組まれていますし、こういったものを見ながら爆発的な感染拡大にならないように、我々は全力を挙げていきたいと思っています。

先ほど申し上げたように、2~3日で倍増していく、オーバーシュートしていく爆発的な感染にはまだ至っていないと思いますが、しかしかなり感染者の数が増えてきていますので、本

当に総理の言われる最大限の警戒感を持って、本当に極めて強い危機感を持って対応しているところであります。

（問）成長戦略会議のことについてお伺いします。

今回、生産性向上について中小企業政策が1つのテーマになっているようですけれども、民間議員の中では「中小企業というのは相対的に生産性が低いので、賃金を上げて生産性を向上すべきだ」という提言をしている方もいらっしゃるれば、一方で「価格転嫁が進まないの、大企業に比べると中小企業が生産性が見劣りする。実際にはそんなに変わらず、地域の雇用を担っている」というような民間議員の御意見も見られました。

2人の意見が対立するようにも見えるんですけども、政府としては今後、中小企業政策については、支援をして延命していくという方針でいくのか、それとも、改革を断行していくという方針でいくのか、どちらの方向性に向いて今、生産性向上に取り組もうと考えていらっしゃるのでしょうか。

（大臣）まず大前提として、中小企業を淘汰していく、そういう意見は一切ありません。このことをまず申し上げたいと思います。それぞれの地域で中小企業の皆さんが頑張っておられて、今おっしゃったように地域の雇用を担われていたり、地域の活力を担われていたり、あるいは大企業に重要な部品を提供されたり、あるいは地域の皆さんの生活に必要ないろんなサービスを提供しておられたり、それぞれ役割を担って大きな存在意義を持っておられると思います。

その上で様々な議論があります。共通なのはやはり生産性を上げていくこと。そしてそのことが賃上げにもつながっていくということでもあります。賃上げと生産性、どちらがどちらなのかという様々な議論はあります。見方によってそれぞれいろんな意見がございましてけれども、お1人の意見でそれを全て採用するということではなくて、しっかりと今日も様々な議論をしていただきました。その上で集約をしていきたいと。それをするのが私の仕事でもありますので、今日も様々な活発な、有益な議論をいただきましたけれども、しっかりとそれを集約していきたいと考えています。

その大きな方向性として、今申し上げたような生産性を上げるということとは、もうみんな共通の思いであります。それから、賃上げもやはりやっていく。最低賃金について言えば、もう政

府は7月に骨太方針で大きな方針を出しております。

中小企業の様々な取組をしっかりと支援しながら、早期に1,000円を目指していくという方向性は出しておりますので、それを変更したということではありませんので、その方針に基づいて議論を進めていきたいと思っておりますけれども、当然デジタル化が大事であるとか、それからやはり規模は拡大していった方が効率が上がるのではないかと、そういった議論、いろんな方向性が出せると思っています。

大企業との下請け構造で転嫁できない。そうではなくて大企業とパートナーを組んで、そして中小企業の方の、ある意味、例えば知的財産の保護などもしながら、一緒に取り組んでいけるオープンなイノベーションのそういう仕組みを作っていけないとか、競争政策をしっかりと構築していくことが大事であるとか、集約できる大きな方向性が色々出せると思っていますので、いろんな意見はありますけれども、しっかりと取りまとめて、そして年末に向けて経済対策、あるいは来年の予算、税、規制改革を総動員して、しっかりと取りまとめていきたいと思っております。

ありがとうございました。